

山陰海岸ジオパークの学習プログラム開発



山陰海岸ジオパークとは？

山陰海岸ジオパークとは、平成22年に世界ジオパークに認定された、京都府～兵庫県但馬地域～鳥取県東部にまたがる面積約2500平方キロメートルのエリアです(図1)。日本海形成から現在に至る様々な地形や地質が存在し、それらを背景とした生き物や人々の暮らしにふれることができます。

人と自然の博物館は、山陰海岸エリアの地元の自治体等関係者がジオパークを目指して活動していたころから、ジオパーク準備委員会への参画やキャラバンによる地域支援などの地元の自治体等地域の自治体等活動を行ってきました。ジオパークに認定された後は、兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科の先山徹氏による基盤研究B「ジオパークにおける展示・学習施設の活性化を促す学習プログラムの構

築と博物館の役割」の研究分担者として、複数の博物館研究員がかかわっています。わたしはジオパークエリアにおける植物調査と、ジオパーク地域拠点の一つ「道の駅神鍋高原」をベースに活動されている「神鍋の山野草を愛でる会」の活動支援を行ってきました。植物調査の成果としては、分布域がほぼ山陰海岸ジオパークエリアと重複する唯一の植物タジマタムラソウを、ジオパークのシンボルとしてフィーチャーしようと、重点的な調査を行いました。その結果、タジマタムラソウは雌花をつける雌株と両性花をつける両性株の二型が存在することがわかり、論文として発表しました。

神鍋の山野草を愛でる会は、月2回の神鍋エリアでの植物観察会の他、植物相調査を行っており、その同定作業をお手伝いしています。



タジマタムラソウの両性花(写真左)と雌花(同右)

その過程で絶滅したとされていたナツエビネが再発見され、これまで分布の報告がなかったミカエリソウやキクタニギク、ヒキオコシなどが次々に見つかってきています。これらの成果を紹介するため、博物館や道の駅で神鍋高原の植物を紹介するミニ企画展を実施しました。また博物館と愛でる会の共催で植物観察ハイキングを2度実施し、京丹後や加古川、三田からの受講者に神鍋の植物を楽しんで頂きました。

一方但馬地域では近年シカによる草本植生の食害が著しく、これまで普通にみられたザゼンソウやサンインヒキオコシ等が数を減らしています。今まで神鍋で分布を確認した植物を形として残そうと、植物を紹介する小冊子をつくる検討会が立ち上がり、委員として参画しています。これまで神鍋高原では800種以上が記録されていますが、明らかな園芸植物を除き500種程度を紹介する予定で植物の選定を行っています。今後2年で原稿作成と出版を目指します。



林床植物がほとんどみられなくなった阿瀬溪谷(豊岡市日高町羽尻)



山陰海岸ジオパーク学習プログラム開発プロジェクト

代表者：高野温子

協力者：神鍋山野草を愛でる会

財源：科研費基盤研究B 分担者